

# 所 信

## 【はじめに】

先人が積み重ねてきた努力と汗が歴史となり、まちを創る。

画一的な都市化は、先人が創り上げてきた歴史あるまちに、今という「色」で彩ることが出来ない。未来に誇る「色」あるまちにするために、我われは力強くも前へ前へと進んでいかなければならない。未知なる未来を、明るい豊かな社会としていくために、我われは運動を起こし、意識変革をこの地域に起こしていく。明るい豊かな社会を目指していくなれば、それを担う我われが明るい豊かな人財となる必要性に行きつく。

我われのまちづくりは人づくりである。不変の人づくりこそがまちを創る。

青年会議所が四十歳までの学び舎であるならば、今まさに我われがやらなければならないことは、まちづくりの基礎となる人づくりである。

まさに今、このまちはゆっくりとした動きながらも、大きな変化を余儀なくされている。まちづくりの主体が、国から地方、地方から個々の住民へと変わりつつある今こそ、我われ青年会議所が矜持とする揺ぎない信念と情熱をもった人づくりが必要となってくると確信する。

人がまちを創り、まちが人を育むならば、我われはまちづくりを通じて地域に住まう人びとを育み、よりよいまちを創っていくことの出来る人財へと成長を遂げる。

時代を切り拓くのは我われ青年の使命である。

そのためには、時代の変化を捉えたしなやかな発想と、創立以来絶えることのない情熱をもって、心をひとつに行動の出来る人財へと成長し、光輝く海部津島という未来に誇れるまちを創造していかなければならない。

## 【まちへの想い】

1963年4月10日、志高き青年たちによって当青年会議所は誕生した。明るい豊かな社会の創造という崇高な理念のもとに運動発信を続け、本年2017年度には創立55周年を迎える。脈々と受け継がれてきた、その理念と決意による運動は確実にこの地域に変革をもたらし続けている。この歴史と伝統ある海部津島青年会議所が、今もなお地域に根差した活動をしていけることに対し、先輩諸氏を始め、ご協力いただいている行政、関係諸団体、すべての皆様に心からの敬意と感謝を申し上げたい。

55周年という節目に、先人の歩んでこられた道のりについて考えるとき、さらなる地域社会の進歩発展に資する使命に行き当たる。地域社会の進歩発展こそが、海部津島青年会議所がこの地域にあり続けるための使命であり、そのためには、60年70年そして100年と続く組織となるための方向性を指し示していかなければならない。先人が創り上げてきた過去のどこかに、未来を彩る「色」がある。やり残したことはないか。これから

やらなければいけないことは何なのか。過去の成果をとことん追求し、螺旋的発展の糸口を見つけ出し、55周年という節目に過去から「色」ある未来を想像する。

我われはこの節目を好機と捉え、混沌とする社会を未知の可能性と捉え、青年会議所の真価を発揮する。地域のこれからの進歩発展を創造する上で、多くの答えが導き出せると確信する。

ある青年が海部津島地域のことを聞かれてこう言った。

「とくにこれと言って何もないまちだ」

歴史と文化に彩られ、多くの偉人たちが日本の未来を思い描き、日本をそして世界をもこの地域から動かしてきた。それは、だれもが認めるこの地域の誇りである。しかし、もう何十年何百年も前の歴史上のことである。

海部津島地域がこんなまちであるならば、青年はどう答えたのだろうか。

我われの住み暮らす海部津島地域は、広域的な観点でまちを捉え、組織・地域の垣根を超えた横のつながりが強く、他地域にはない新たな関係性を構築している。住民のだれもが主体性をもってまちづくりに参画している。

まちは活気に溢れ、人は元気に満ち溢れている。

また、海部津島地域ならではの新たな産業や特色が生み出され、地域のさらなる活性化に貢献している。

お洒落でかっこいいこのまちには多くの人が行き交い、商業が活気づいている。

豊かな自然と歴史、文化を大切にし、温かみのある人間関係を築き、子どもたちが夢と希望をもっている。また、地域全体で協力した子育てが普及しており、子どもからお年寄りまで全世代が助け合い共生している。

余暇は地域活動や農業をして過ごしたり、まちの中心で文化、娯楽を楽しんで過ごしている。だれもがどこへでも気軽に出かけられる便利なまち。祭りともなれば国内外から多くの人が集まり、一度は行ってみたいまちとなる。

子どもがこう言う。

「大きくなったらここで働きたい」「大きくなったらこのまちをもっとよくしたい」

歴史や文化は若者に受け継がれ、新たな価値を生み、そこには「色」ある今がある。

我われは海部津島地域の歴史・文化に、少年の夢をのせた未来へのスタートをきる。

それぞれの個性を活かせば、地域アイデンティティを構成する素晴らしい材料になると確信する。そして、個性を活かし自立した地域としての海部津島を創るためには、まちづくりについての情報を共有し、産官学言の協力を得ると共に互いを補い合い、広域対応

が必要な問題には協働して対応していく連携が求められてくる。市民一人ひとりが、多様で心豊かな自分らしい生活を楽しめるために地域があると考えれば、地域のイメージもずいぶん変わったものになる。今求められているものは、地域に対する発想の転換である。地域を行政の区割りのように固定したものとして考えるのではなく、市民の多様な生活ニーズに応じていくための社会システムというように機能面から捉えていくと、その本来の目的もあるべき性格もよりはっきりする。すべてのニーズに応じていく機能をもつことは不可能だが、より多くのニーズに応じていこうということなら、地域間の協力によって可能になる。まさに、地域の連携による多様な地域間ネットワークを整え、市民のニーズに応えるシステムとなっていくことこそが、地域にとって重要となってくる。それを現実のものとするためには、我われ J C が今まで以上に地域の認識や市民の理解を深め、地域に対しても行政に対しても、正面から提言出来る姿勢を保たねばならない。そして、ビジョンとアクションを一致させる努力と同時に、今起ころうとしている変化を体系的に捉え、地域に合った対応策を創造し具現化していくことこそが我われ J C が魅力溢れる団体であり続けるための重要なアクションとなってくる。

もちろん、最大の運動発信の場であるならば、それは地域における最大の課題解決の機会でなければならない。

人の想像が及ばないところにこそ、人びとが待ち望んでやまない新しい海部津島の始まりがある。

新しい海部津島は、見たことも聞いたこともない創造から始まる。

創造が想像を超え、想いが未来を創る。

未来は創るからおもしろい。

しかし、忘れてはならない。我われのつとめは成功ではない。失敗を恐れずさらに前へ前へと進むことである。

### 【未来への想い】

選挙権の引き下げによる若い有権者の増加で、日本の政治は変わるのだろうか。世代間の負担のあり方など国の将来を考え、この地域にも大きな影響を与えるきっかけとなっていくのであろうか。日本の有権者の平均年齢は、少子高齢化に伴い 2050年には60歳を超えるとの推計がある。こうしたシルバー民主主義の弊害を緩和するためには、高齢者に我が身を預けるだけでなく、将来を担う世代が真剣に考え、行動に移していかなければならない。18歳投票権は我われ青年世代である20～40歳までの世代の国づくり、まちづくりへの意識を変革させるための絶好の機会だと確信する。近年では40歳以上の世代ではじめて投票率が50%を超え、20～40歳までの我われ青年世代はそれを下回る。いつの時代も時代を切り開いてきたのが青年であるならば、それはあまりに責任がなすぎ。重要なのは、せつかく有権者になった若年層が投票所に背を向けることがないよう

にすることだと考える。若年層の投票率が高くなれば、我われ青年世代も無責任にはいなくなる。それを成し得るためには、若年層が主権を行使出来るだけの自覚をもち合わせる必要がある。その上で、政治知識や判断力を養う主権者意識を教育として地域社会へ充実させていく必要性に行きつく。若い世代が主体的な学びを得ることで、地域における新たな「色」となり、まちを語り、夢を抱き、行動に移していく一翼を担うためには、我われが先頭に立ち、率先して今までの枠に囚われない行動を起こしていく必要がある。

また、我われが起こしていく意識変革の向けるべき先として、より若い世代を対象としたアプローチも必要となってくる。

2020年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会という絶好のチャンスがやってくる。もたらず効果は日本経済全体に波及するとも言われ、震災被災地の復興や諸外国との外交問題など日本を取り巻く問題解決の起爆剤としても期待されている。この大会では経済効果だけでなく、スポーツのもつ魅力にも期待したい。スポーツは我われに感動や勇気を与えてくれる。それは、競技する当事者だけでなく、観客を含め関わるすべての人に与えてくれるものであるからこそ、全世界の人びとが魅了されるのだろう。また、スポーツを通じて人が集い、人が行き交い、人と地域がつながる。スポーツには地域を活性化する力があることも魅力の一つであると確信する。それは、次代を担う子どもにも大きな影響を与えることとなる。

しかし、日本の宝である子どもには、諸外国に比べ自尊感情が低く、将来への夢を描けないという指摘がなされている。この原因には子どもをもつ親自身の自尊感情の低下が考えられる。自分に自信がもてない中で子育てをおこなうため、子どもも不安を抱え、自尊感情が低くなってしまおうと考える。自尊感情を高める上で大切になってくるものは、包み込まれる感覚である。子どもを通じ親自身の成長を促すことは、地域社会の好循環へとつながっていく。子どもにとってスポーツを通じ得られるものが、将来へ向けた夢や希望であるならば、2020年までにやらなければならないことが明確になってくる。子どもが夢をもつことは、これからの人間形成に重要な役割を果たすと考える。子どもの積極的な姿勢を育成し規範意識を育むと共に、新しい価値を希求する子どもが地域社会発展の原動力となると捉え、徳育を主体とした次世代育成による地域の活性化を進めていきたい。

#### 【継承への想い】

質と量について問われることがある。求めるものは両者のバランスであると考え。量の増加は推進力を向上させ、質の増加は組織を強くする。どちらかが欠ければ組織の力は大きく損なわれてしまう。正しく継承出来ない組織はただの烏合の衆となりかねない。まちづくりを真剣に考え、幅広いJC運動を展開していくためには、魅力ある事業の構築と共に広く会員を求め、より地域に密着した青年会議所の存在を心がけていかなければならない。そのために必要なこととして、今の会員拡大に対する勢いを止めることなく、綿密なる計画と決意をもって全員拡大を推し進めていく。

また、今までの枠に捉われず、新たな拡大における仕組みを構築し、次代へと継承していくことの出来る、時代に則した「色」のある拡大に挑んでいきたい。

特に2017年度は入会3年未満のメンバーが多くを占める。

企業が掲げる目的には、後継者を育て、事業を継承させることが含まれる。同様に、日本人は後継ぎを重視する傾向にある。後継ぎを欠くということは、家系を途絶えさせ、今まで培ってきたすべてを過去の歴史へと変えることとなる。組織は適切な人を得て発展していくものである。いかに立派な歴史、伝統をもった組織でも、それを正しく継承する人がいなければ衰退し、途絶えてしまうこととなる。組織の中で何をし、どう運営していくのかも重要なことではあるが、どんなに優れた組織が出来上がったとしても、やはりそれを活かす人が重要となる。明るい豊かな社会の実現に歩を進め、組織とそこに集う人びとが隆々と発展していけるかどうかとも同様に、やはり人次第である。

我われは、引き続き全員での育成を推し進め、次代へと引き継いでいく。我われは自らの資質を高め成長すると共に、会員となることで得られる成長の可能性を入会候補者に情熱をもって語り、自らの経験すべてを財産とし、継承していかなければならない。そして、そこで生まれる、想いをもった「色」ある人財が、これからの地域社会の先頭に立ち、率先して行動を起こせる人財へと成長をするきっかけとならなければならない。

揺ぎない情熱が組織を動かし、地域へと波及し継承されていくと心から願う。

#### 【組織への想い】

海部津島地域のさらなる発展のためには、先人が豊かに育んできた文化的資質を、のびやかに展開し、海部津島地域に住まう我われの文化的存在意義を広く理解し、伝統文化を継承発展させながら、現代文化を創造していくことにより、明るく生きがいのある真に豊かな社会の実現を目指す必要がある。それを成し得る団体となるためには、55年という歴史と共に培ったつながりを魅力と捉え、世代間の交流を通じて、メンバー間の相互理解を深めながら地域に対し発信をしていくことで、やりがいの中にもおもしろさを感じる団体へと進化を遂げなければならない。また、我われの活動を支えてくれる身近な存在への感謝をしっかりと胸に刻み、組織の魅力を発信していくことで、地域のさらなる発展の原動力としていくことも忘れてはならない。

当然ながら組織としての足元を見直すと、メンバーとしての個人の価値観の変化や経験不足、社会システムの変革に伴い、会員への対応や組織運営の方法も、今までと異なったものが必要となる。事業や企画に対応するフォローの仕方、行政や他団体との関わり方、事業の評価に対する新しいバロメーターの設定の問題など、「変革がもたらす変化」は予想以上に広範囲にわたる。しかし、これからのJCには「変えるべきもの」と「変えてはならないもの」を認識した上で、必要とあらば多少の痛みを伴うことも覚悟して貫き通すという力強さが求められる。これからを踏まえて、保守的な姿勢に陥ることなく、勇気をも

って改革を進める時期が来ていることを改めて認識したい。

今までの常識を破ることは勇気がいることだが、そこから次のスタンダードが生まれると信じている。

#### 【おわりに】

海部津島青年会議所には半世紀以上にもなる先人が築き上げた組織の基盤がある。これまで継続して活動出来たのは、この組織が地域から信頼を得続けてきたからである。この信頼が財産であり、明るい豊かな社会の創造につながっていることを忘れてはならない。新たな信頼を得ていくためには、物事の核心を追求し、影響する相手を考えることである。本質を見失わず、まちに対する想いを高め、時流に即した進化をしていきながら、海部津島の「色」ある今を創り上げていく。

40歳にして卒業をする我われにとって、今成すべきことを考え、行動に移していく必要がある。

物事を深く見通し、本質をとらえた見識で想いのある小さな一歩を踏み出していこう。

光輝く海部津島を創造するために

#### 想いのチカラ

～情熱が溢れ彩りある海部津島をつくる～

#### 基本方針

##### 【まちへの想い】

- ・ 螺旋的発展の糸口を見つけ出すために、すべての皆様に心からの敬意と感謝を申し上げると共に、過去の成果を探求し、改めて時代に則した地域における課題を模索することで、さらなる地域社会の進歩発展に貢献してまいります。
- ・ 個性を活かし自立した地域としての海部津島地域を創るために、今まで以上に地域の認識や市民の理解を深め、今起ころうとしている変化を体系的に捉え、地域に合った対応策を創造し具現化してまいります。

##### 【未来への想い】

- ・ シルバー民主主義の弊害を緩和するために、若年層への教育の一環として主権者意識を高め、まちづくりへの意識変革へとつなげると共に、主権者としての意識と選挙への意義や重要性を醸成する。
- ・ 子どもの自尊感情の向上及び地域間交流の推進を図るために、スポーツを通じた徳育に

より、規範意識の醸成と次世代育成を行っていくことで、新しい価値の希求及び地域の希薄化改善を図ってまいります。

**【継承への想い】**

- ・ まちづくりを真剣に考え、幅広いJC運動を展開していくために、魅力ある事業の構築と共に、2017年度の全員拡大を綿密なる計画と決意をもって実施する。
- ・ 明るい豊かな社会の実現に歩を進め、組織と海部津島地域に集う人びとが隆々と発展していくために、会員各自の資質を高め、これからの地域社会の先頭に立ち、率先して行動を起こせる人財へと成長をするきっかけとしてまいります。

**【組織への想い】**

- ・ 55周年を迎えるにあたり、今まで以上に地域から必要とされる団体へと進化し、海部津島地域のさらなる発展に寄与するために、世代を超えた交流を図り、組織としてのあり方を見直すきっかけとし、次なるスタンダードを導き出す。